

## 第5節 家庭のメディアルール

母親は、自分の情報モラル意識は高く、子どもに対して十分な配慮をしていると感じている。一方、父親に対しては、子どもへの配慮や態度を心配している。

第5節では、デジタルメディア（テレビ、ビデオ・DVD、アプリ・ソフトを想定）を使用する際の家庭のメディアルールについて、母親・父親・祖父母の観点から調べた。

### ●母親は情報モラル意識高い系

図3-5-1は、母親に家族でのメディアルールについて、4段階評定尺度（「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」）でたずねた結果から、「あてはまる」「ややあてはまる」の合計をまとめたものである。経年比較するために、2013年の調査結果も併記している。

子どもに対する配慮としては、母親・父親・家族の3視点からたずねている。

73.6%の母親が、「私は、子どもの前で、マナーに気をつけている（長時間見ない・子どもに刺激的内容を避けるなど）」と回答している。一方、自分の「配偶者は、子どもの前で、マナーに気をつけている」と回答したのは、55.1%であった。このことから、母親の多くは、自ら情報モラルの高さを認識しているが、父親に対しては、半数近くがマナーを守っていないと厳しい視点で評価していることがわかる。2013年と比較すると、子どもへの配慮は、母親・父親ともに若干減少している。

「家族で、子どもが見たり使ったりする内容が年齢に適切か、話し合っている」と回答した母親は、42.2%であった。子どもの発達段階に即して、コンテンツを吟味し、子どもに配慮している家庭は、半数以下であることがわかった。

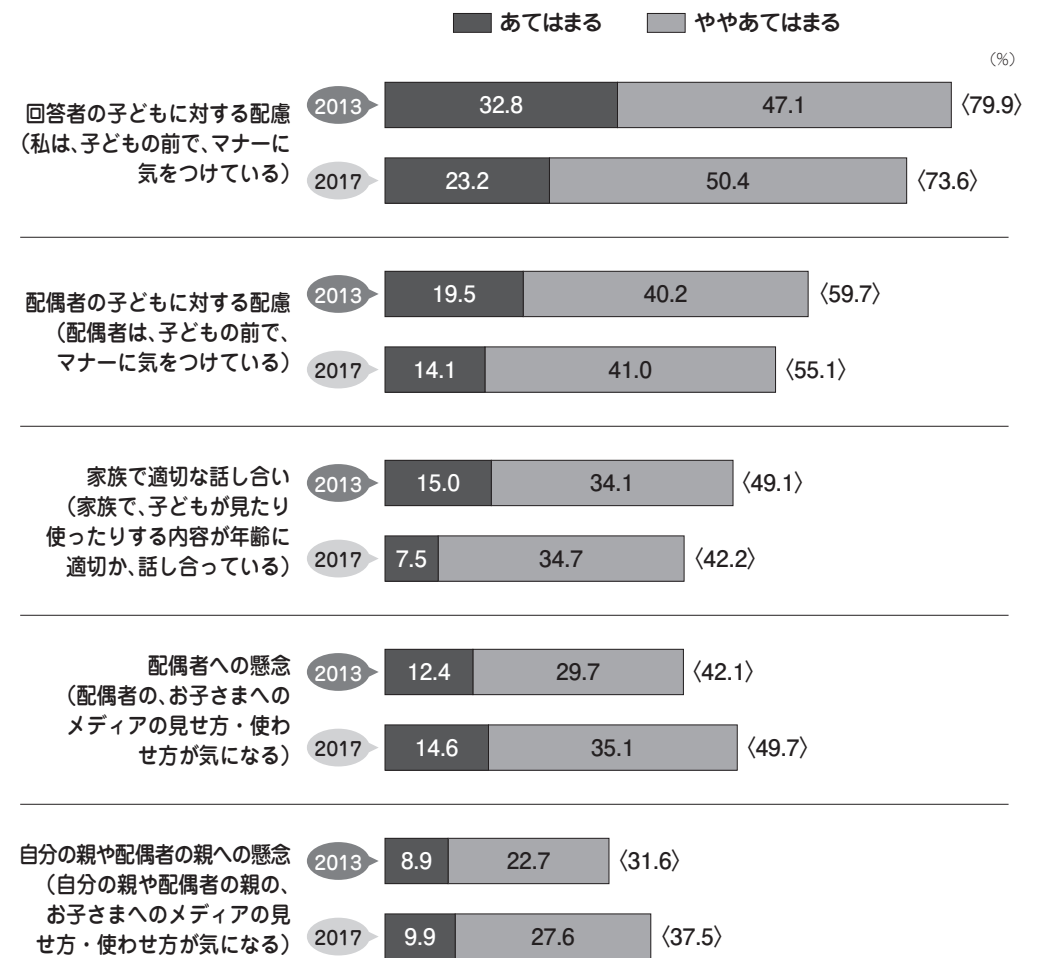
### ●父親の態度に心配

子どもに対する懸念としては、父親と祖父母の2視点からたずねている。

49.7%の母親は、「配偶者の、お子さまへのメディアの見せ方・使わせ方が気になる」と回答していた。一方、「自分の親や配偶者の親の、お子さまへのメディアの見せ方・使わせ方が気になる」と回答したのは、37.5%であった。2013年と比較すると、いずれも6～7ポイント増加している。

半数近くの父親が、子どもに対して、母親が不安を抱くようなデジタルメディアの見せ方や使わせ方をやっていることがわかる。この質問項目では、具体例をたずねていないので、懸念材料の詳細はわからないが、母親の心配の種として、父親の態度があることは明らかである。この結果には、母親が子どもに対して自分の態度に自信をもっていることが根底にある。これは、母親が子育ての過程で抱く「世代継承性（次世代を育成する関心）」（Erikson, 1950, 岡本・深瀬, 2017）とかかわっている。すなわち、母親にとって、高度情報社会のなかで子どもを育てていくことは、メディアルールの遵守につながり、そこに母親として意義を見いだしているのではと考える。

図3-5-1 家庭のメディアルール（経年比較）



注1) 2013年は無答不明を除く。

注2) 〈 〉は「あてはまる」+「ややあてはまる」の合計値。